

2年次

主体的・協働的な学びを育む支援

～個別教育計画を活かした授業づくりから～



「主体的・協働的な学び」は古くて新しいテーマです。近年にわかに注目されていますが、障害のある子どもたちへの教育の中で従来から大切にされ、議論され続けてきたことでもあります。昨年度、本校では、これまでの取り組みを基盤としながら、ICTを活用した学習活動について検討し、主体的・協働的な学びを育む支援方法について研究を行いました。今年度は、より一人一人の学びの質や深まりに焦点をあてるため、個別教育計画を活かした授業づくりから「主体的・協働的な学びを育む支援」について検討を重ねてまいりました。

つきましては、下記の通り研究協議会を開催いたします。ご多用のことと存じますが、多くの方のご参加をお待ちしております。

期日 平成29年1月27日（金） 9:00～16:30

場所 東京学芸大学附属特別支援学校・成美教育文化会館

9:00～9:30	9:30～9:50	10:00～11:00	11:10～11:50	11:50～12:45	12:45～14:45	15:00～16:30
受付	全体会	研究授業 公開授業	ポスター発表 読み書きソフト 体験コーナー	昼食	分科会	講演

全体会 今年度の研究の概要・各分科会の紹介

研究授業 幼稚部 運動遊び「交流であそぼう」 小学部 体育「バスケットボール」
 中学部 総合学習「学習発表会」 高等部 総合学習「学習発表会」

主催 東京学芸大学附属特別支援学校 **後援** 東京都教育委員会 東久留米市

講演

「“個別の支援計画” 2017」 加瀬 進 (東京学芸大学 特別支援科学講座)



「ことの産声」～それは保護者が願う、カセットテープにかわる情報伝達のツール。「ことの始まり」～それは本人の願いをかなえる、ヒューマン・トランポリンの記録。「ことの迷走」～渡し船のない島、橋のない川、荒地の糧さがし、本人不在の免罪符。「ことのこれから」～“個別の支援計画”、その歩みを振り返る中で見通したい、在るべきそのカタチ。

錯綜・林立する、書くことを強いられたたくさんの計画。「子どもの最善の利益」を護り、先生が「授業で勝負」と言える計画づくり。精一杯、考えてみますね。どうぞよろしくお願ひ致します。

研究授業・公開授業

幼稚部	ひかり組	研究授業 運動遊び「交流であそぼう」	小泉浩一・伊東久美子 山内裕史・田口悦津子
小学部	低学年 1 2 3年生	体育「体づくり運動」	熊谷直樹・吉田友紀 野原隆弘・山口知子
	高学年 4 5 6年生	研究授業 体育「バスケットボール」	小島啓治・松本直巳
中学部	グループ ①	研究授業 総合学習「学習発表会」	清水麻由・岡本有未・齋藤大地
	グループ ②	総合学習「学習発表会」	小田達夫・中村理美・角田真紀子
	グループ ③	総合学習「学習発表会」	仲野宏樹・蓮香美園・佐藤弘康
高等部	グループ ①	研究授業 総合学習「学習発表会」	岩本悠希・井上剛・高橋智子
	グループ ②	総合学習「学習発表会」	川井優子・橋都由美子・松本晃

*太字になっている授業が研究授業、その他は公開授業となります。

*中学部及び高等部は、縦割りのグループで授業を行います。

分科会

● 分科会 1 (幼稚部)

【共同研究者：大伴 潔 橋本 創一 林 安紀子】

○インクルーシブ保育「交流保育」を考える

東久留米市立さいわい保育園との交流保育は1978年から行われ今年度で38年目を迎えた。幼児は毎週水曜日に保育園に登園し、保育園児とともに保育を受けている。今年度は26回の交流保育を計画し、「①どの子どもも保育活動に参加する、②子どものニーズに応える」ことをめざした実践を行ってきた。

分科会前の時間を使い交流保育の実際の様子を映像で紹介し、分科会では実践報告と個別教育計画を活かした取り組みについて報告する。その後、交流保育に長年携わってきた保育・教育関係者と参加者の皆さんでインクルーシブ保育や交流保育についての議論を深めていきたい。

● 分科会 2 (小学部)

【共同研究者：小笠原 恵 藤野 博】

○個別教育計画と児童一人ひとりが活躍する授業作り

本校小学部では、半期毎に保護者と共に個別教育計画を作成しているが、登下校時に教員と保護者間で情報交換できるメリットがあり、重点課題の進捗状況、特に支援方法について日々意見を交わすことができる。支援方法の質を高め厚みをもたせることが、一人ひとりの学びの質を高めるために重要になる。授業において児童が「活躍する場面」、即ち児童が生き生きと活動し、強く他の児童や教員の印象に残る姿に、主体的・協働的な学びにつながるヒントがあると考えた。児童が活躍する姿を引き出すための要素の検討を重ね、支援方法の充実を試みた。研究授業では、児童が自分の役割を意識し、友達と積極的に関わりながら運動に取り組み、一人ひとりが活躍する授業をご覧いただき、分科会において議論を深めたい。

● 分科会 3 (中学部)

【共同研究者：伊藤 友彦 澤 隆史】

○個別教育計画の取り組みから主体的・協働的な学びを育む授業づくりへ

中学部段階では、個別教育計画において生徒自身がより主体的に自分の重点課題に向き合えるように支援内容・方法・指導場面を計画してきた。個別教育計画で取り上げている目標は一人ひとり違っていても、ほとんどの生徒の支援方法の中で「取り組んだ成果を保護者、教員、学級の仲間からしっかりと認められる」経験を大切に積み重ねている。個別教育計画での、こうした取り組みは、一人一人の自己肯定感を高め、お互いを認め合う姿を育み、学びに向かう力へと繋がると考えた。

今年度は、この「お互いを認め合う姿」「学びに向かう力」に注目しながら、主体的・協働的な学びを育む授業作りを検討してきた。分科会では、研究授業での主体的・協働的な学びを育む授業の作り方について、改善発展の視点等、検討・協議し、中学部で生徒が学びに向かう力を培ってきた指導の経緯を事例で紹介する。

● 分科会 4 (高等部)

【共同研究者：奥住 秀之 村山 拓】

○本人参画型の個別教育計画システムを活かした主体的・協働的な授業を求めて

高等部では、生徒本人が個別教育計画の立案から評価まで関わることで、生徒自身の主体者意識をより高めることができるのではないかと考えた。個別教育計画を活かした授業づくりの一つとして、学習発表会を題材に、主体的・協働的に学ぶ姿を模索しながら授業づくりを行ってきた。

分科会では、これまでの取り組みの様子や当日の授業の様子から、よりよい授業のあり方について協議できればと考える。

ポスター発表・読み書き体験コーナー

○ポスター発表

重複学級(空組)のあゆみ・学校図書館司書と協働した授業実践報告・本校相談部の実施報告
金融教育研究プロジェクト報告(東京学芸大学とみずほFGの共同研究の一環として)他

○読み書きソフト体験コーナー

文部科学省による「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」の指定を受け、昨年度東京学芸大学と連携し、タブレット端末を用いた読み書き学習支援ソフトを作成した。実践報告とともに、体験コーナーを設ける。

<参加費>

参加費・・・2,000円（当日受付にてお支払いください）

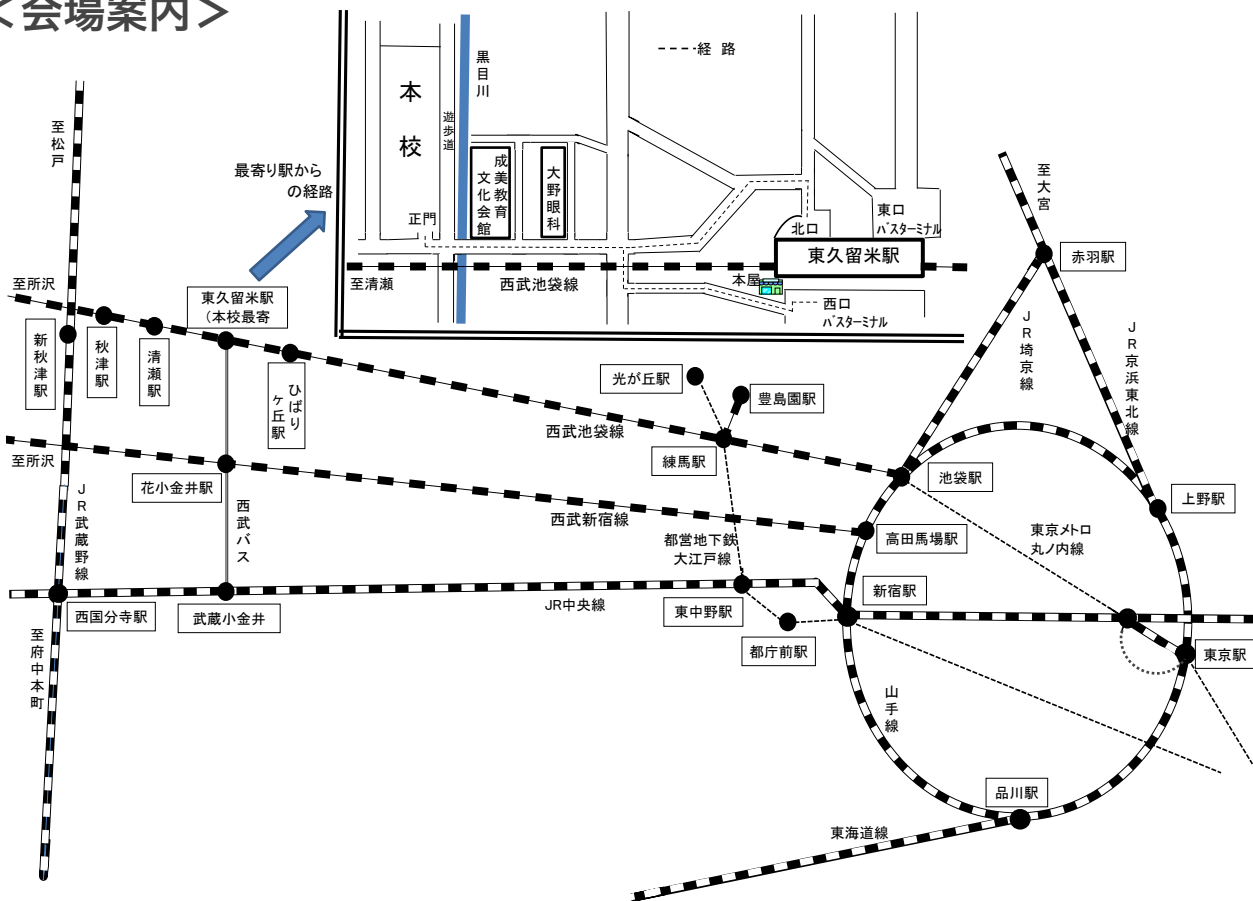
お弁当代・・・800円（希望される方は申込書に記入し、当日受付にてお支払いください）

<申し込み方法>

同封の「参加申込書」に参加を希望される分科会の番号をご記入の上、ファックスまたはメールでお送りください。会場の都合上、希望者が多い場合は第二希望の分科会をお伺いすることもありますのでご了承ください。「参加申込書」はホームページにも掲載します。メールでお送りいただく場合はそちらをご利用ください。締切は平成29年1月16日(月)です。締切日以降は下記の連絡先までお問い合わせください。

●申し込み先 ファックス：042-471-5275 Eメール：sskenkyu@u-gakugei.ac.jp

<会場案内>



- 西武池袋線 東久留米駅東口（北口方面）徒歩10分
 - 西武バス東久留米駅西口 徒歩10分
- *お車でのご来場はご遠慮ください。

<問い合わせ先>

東京学芸大学附属特別支援学校 〒203-0004 東京都東久留米市氷川台1-6-1

Tel:042-471-5274 Fax:042-471-5275

Email: sskenkyu@u-gakugei.ac.jp URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/>

研究主任 齋藤大地